

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成25年5月2日(2013.5.2)

【公表番号】特表2010-525246(P2010-525246A)

【公表日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2010-029

【出願番号】特願2010-503456(P2010-503456)

【国際特許分類】

F 16 C 29/04 (2006.01)

F 16 B 3/04 (2006.01)

F 16 B 5/00 (2006.01)

【F I】

F 16 C 29/04

F 16 B 3/04

F 16 B 5/00 E

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年2月15日(2013.2.15)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

取付け装置(1, 1)であって、

取付け台(3)を有するリニアガイドレール(2)と、

取付け台(3)の解除可能な収容のために軸線方向に加工された溝(5)を有する支持エレメント(6)と、

クランプエレメント(10, 10, 10)と、を備えており、

取付け台(3)はクランプエレメント(10, 10, 10)によって溝(5)内に保持されている、取付け装置において、

取付け台(3)は、軸線方向に延在している、クランプエレメント(10, 10, 10)を部分的に形状接続式に取り囲む切欠き(11)を有しており、

該切欠き(11)に対してクランプエレメント(10, 10, 10)はクランプ力を負荷しながら支持されることを特徴とする、取付け装置。

【請求項2】

少なくとも、クランプエレメント(10, 10, 10)に面した溝側面(8)は、アンダカットを形成するために傾斜付けされていることを特徴とする、請求項1記載の取付け装置。

【請求項3】

リニアガイドレール(2)は鏡面对称的に構成されており、取付け台(3)は該取付け台(3)の各長手方向側面にそれぞれ切欠き(11)を有していることを特徴とする、請求項1又は2記載の取付け装置。

【請求項4】

クランプエレメント(10, 10, 10)はクランプ力を負荷するために厚さに関して可変に形成されていることを特徴とする、請求項1から3までのいずれか一項記載の取付け装置。

【請求項5】

クランプエレメント(10, 10, 10)は軸線方向に配向された円筒軸線を備えた円筒の形態を有しており、クランプエレメント(10, 10, 10)は直径において可変に形成されていることを特徴とする、請求項4記載の取付け装置。

【請求項6】

クランプエレメント(10, 10, 10)は軸線方向に沿って巻かれたコイルばね(17)として形成されていることを特徴とする、請求項4又は5記載の取付け装置。

【請求項7】

クランプエレメント(10, 10, 10)は圧力媒体(26)で満たされた中空円筒(24)として形成されていることを特徴とする、請求項4又は5記載の取付け装置。

【請求項8】

中空円筒(24)は少なくとも一端部側において、圧力媒体(26)に作用するねじ込み可能な閉鎖ネジ(30)を備え付けていることを特徴とする、請求項7記載の取付け装置。

【請求項9】

閉鎖ネジ(30)は軸線方向に移動可能な、流体密に案内される圧力ピストン(37)に作用することを特徴とする、請求項8記載の取付け装置。

【請求項10】

クランプエレメント(10, 10, 10)と、該クランプエレメント(10, 10, 10)に面した溝側面(8)との間に適合エレメント(15)が挿入されており、該適合エレメント(15)はクランプエレメント(10, 10, 10)に面して、クランプエレメント(10, 10, 10)を部分的に収容する、該クランプエレメント(10, 10, 10)に対して形状接続式の軸線方向の切欠き(16)を有しており、かつ、適合エレメント(15)は前記溝側面(8)に面して、該溝側面に対して相補的に形成されていることを特徴とする、請求項1から9までのいずれか一項記載の取付け装置。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

好ましくは、閉鎖ネジは軸線方向に移動可能な、流体密に案内される圧力ピストンに作用する。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0033

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0033】

圧力媒体の粘性及び性質に応じて、場合によっては、閉鎖ネジを流体密にシールする必要がある。このことは、軸線方向で移動可能で、流体密に案内される圧力ピストンによって有利にはもたらすことができる。圧力媒体に対する圧力ピストンのシールは、特にオリングによって行われる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0053

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0053】

最後に図5には、図4に記載の圧縮応力管の別の折一的な実施の形態が、閉鎖ネジ30

のシール部がそれぞれ円筒 24 の内室において軸線方向で移動可能なピストン 37と共に記載されている。軸線方向で移動可能な 2 つのピストン 37 はそれぞれ、O リング 38 によって圧力媒体 26 に対して 流体密にシールされている。